

2020.9  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

# とみ やま 富 薬

9号

第42巻  
No.374



アイ *Polygonum tinctorium* Lour. (タデ科 *Polygonaceae*)

**生 薬** セイタイ（青黛） 夏から秋に茎葉を刈り取り、2-3昼夜水に浸し、葉が枝から落ちる頃枝を引き上げ、石灰を加え、攪拌し、深紫色になったとき、液面に浮いた藍色の泡末をすくい取り乾燥する。

**成 分** 葉には indican, tryptanthrin, caffeic acid, gallic acid, kaempferol, quercetinなどを含有する。

**効 能** 青黛 解熱、消炎、止血、解毒薬として小児の驚癇（ひきつけ） 疳熱、出血、腫-癰（はれもの）などに応用する。まち口舌瘡、扁桃腺炎、咽頭炎、悪瘡、蛇虫咬傷などに外用する。

生薬 セイタイ（青黛）

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



薬としての利用は『神農本草経』（2-3c）に「藍実、味は苦、寒。平沢に生ず。諸毒を解し、蠱（寄生虫）、蚊（乳児が黄色く痩せ、髪の色が落ち高熱が出る）、注鬼（肺結核）、螫（毒虫が刺す）の毒を殺す。久しく服せば、頭は、白からず、身を軽くす」と、染料としての記述は古く、『荀子』（BC313-238）の巻第一、冒頭に「学は以て已むべからず。青は之を藍より取りて、藍よりも青く、氷は水之を為して、水よりも寒たし」と記され、弟子が師匠を越えるという意味のことわざになっています。荀子は戦国時代の思想家で、中国北部の趙国（BC403-228）の出身であることや現在の産地が遼寧、河北、山東省であることからこの地方ではこの頃盛んに栽培が行われていたと考えられます。

藍の原植物はアイと推測されますが、『図経本草』（1062）には「藍は所々にある。民家では蔬圃に畦を作って種えるが、三月、四月になると苗が生える。高さ二、三尺ばかり、葉は水蓼に似て花は紅白色、実はやはり蓼の子のようだが、色が非常に黒い。五月、六月に実を採る。但しこれは碧色を染め得るだけで、澱錠にはならない。これが蓼藍というもので、即ち医方に用いるものだ」と、蓼藍について詳しく説明しています。

『本草綱目』（1590）には別項目で「藍澱」と「青黛」についての記載があります。「藍澱 藍の滓を澄ませて下に沈澱したものだ。南方地方では、地に坑を掘って藍を入れ、一夜水に浸して石灰を入れ、千回攪き廻してそれを澄まし、水を去って作る。……その攪き廻す際に起つ浮沫を掠め出し、それを陰乾したものを硃花という。即ち青黛である」とまた「気味は藍とやや同じからぬ点があって、血を止め、毒を抜き、蟲を殺す功力は藍にまさる」とも言っています。

国内で現存する藍染めは天平4年（752）の東大寺大仏殿の開眼供養で瞳に墨を入れた筆に結ばれた縹縷で、絹製、藍染めされた紐です。筆、墨と共に正倉院に保管されていることから、アイは遣唐使により奈良時代にもたらされたものと考えられるようになりましたが、8世紀にそれだけの技術があったか、いささか疑問に感じます。むしろ唐で染められたものを輸入したと考えた方が妥当でしょう。平安時代中期の『本草和名』（918）に「藍実、和名阿為乃美」と薬用に用いた果実について和名が記されていることからこの頃には植物が渡来していたようです。

鎌倉時代に入ると、宝治元年（1247）に、吉野川下流（徳島県藍住町）の見性寺の開祖・翠桂和尚が、「唐から輸入した藍の苗を栽培して衣を染めた」と『見性寺記録』に見えます。室町時代には吉野川流域で盛んに栽培され、天文18年（1549）には葉藍を発酵させて作る「すくも」の製法が伝えられるとより盛んな産業として発展しました。「すくも」作りは9月に刈り取ったアイを床に寝かせ、4-5日ごとに水を打ち、切り返しを繰り返しながら12月まで醗酵をさせ、吠に詰めて半年ほど保管すると白カビが生え、その後カビが自然に消滅するのを待ちます。この「すくも」に木灰と石灰、熱湯を入れ、攪拌した泥状のものを水の入った藍甕に加え、さらに石灰を加え、甕を温めて発酵させます。12-13日間攪拌し、藍が落ち着いたところで染色します。この藍染めの工程を現在の化学に当てはめると、まず「すくも」作りは植物中にある無色の水溶性成分indicanを発酵により加水分解し、indoxylに変化させ、その2分子が空気酸化により青色のindigoに代わる化学反応です。次に、藍建てのという操作は「すくも」、栄養源の小麦ふすまとアルカリ性にする灰汁を入れ発酵させ、indigoを水溶性にします。これに糸や布を入れ、良く浸してから取り出し空気に触れさせると酸化され、indigoに戻り染色されます。（村上守一 記）